

# 「イソベっちの、前へ前へポッポー！」

2012年11月25日(日曜)

ゲスト:岡部真史さん(劇団四季 関西公演本部長)

第75回の「のびのびさん」は、劇団四季、関西公演本部長、岡部真史さんです。

Q. まさか劇団四季さんが大商の会員さんだとは思いませんでした!! ご存じない方はいないと思いますが、念の為どのような劇団か簡単に教えてください。  
1953年にできた劇団で、来年の7月14日で60周年を迎えます。最初は10人で創めた集団だったんですが、現在は俳優が500人以上、スタッフを合わせると1000人を超える劇団になりました。ステージは年間3700回行なっています。また、小学校にうかがいまして、美しい日本語の話し方教室というものも行なっています。

Q. そして現在、大阪では『ライオンキング』が公演されていますね!  
10月28日から、ハービス・エント7階の『大阪四季劇場』で始まっています。

Q. 劇団四季さんは、大商の広告同梱サービスを利用されているそうですが、公演の告知や案内を、我々の営業マンが会社に届けることもあるのですが、「大商ニュース」の広告チラシ同梱サービスを利用すると、3万6千部ほど配布され、しかもいろんな業界の方に幅広く公演の案内が行き渡りますので、非常に役立っています。折角だから職場の皆で行ってみようか、家族を誘ってみようかなど、職場でもお話しいただいているようです。このサービスを利用するとファックスによる申し込みがすぐにあり、案内の効果もすぐに分かります。

Q. レッスンが厳しいですか?

我々が見ても厳しいと感じます。劇場にも『慣れだれ崩れ=去れ』という言葉が貼られています。気持ちが慣れると芝居がだれ、全体が崩れるので、そんな劇団員は去れ! ということです。

Q. 大切にしている言葉「のびのびワード」を教えてください。

「自分の時計を信じる」

浅利慶太の言葉なんですけど、時計の進み方は1人1人違うけれど、着実に前に進んでいる。ただ、他人の時計が早く進んでいけば惑わされてしまう。しかし自分の時計を信じていけば、必ず前に進んでいくことができるんですね。

ありがとうございました。